

第3次葛飾区環境基本計画

みんなでつくる 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか

～令和6年度進捗状況の報告について～

令和7年11月
葛 飾 区

第3次葛飾区環境基本計画の位置付けについて

本計画は、区の環境に対する考え方を明らかにするとともに、葛飾区基本構想に示された将来像「みんなでつくる 水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」を環境面から補完する位置付けにあります。環境に係る施策を中長期的な展望に立って、総合的・計画的に推進するための計画であり、各個別計画の策定や施策の実施に当たっての環境配慮の方向性を示すものです。

また、地球温暖化対策推進法に基づく「葛飾区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」、気候変動適応法に基づく「葛飾区気候変動適応計画」及び生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略である「生物多様性かつしか戦略」を包含する計画とします。

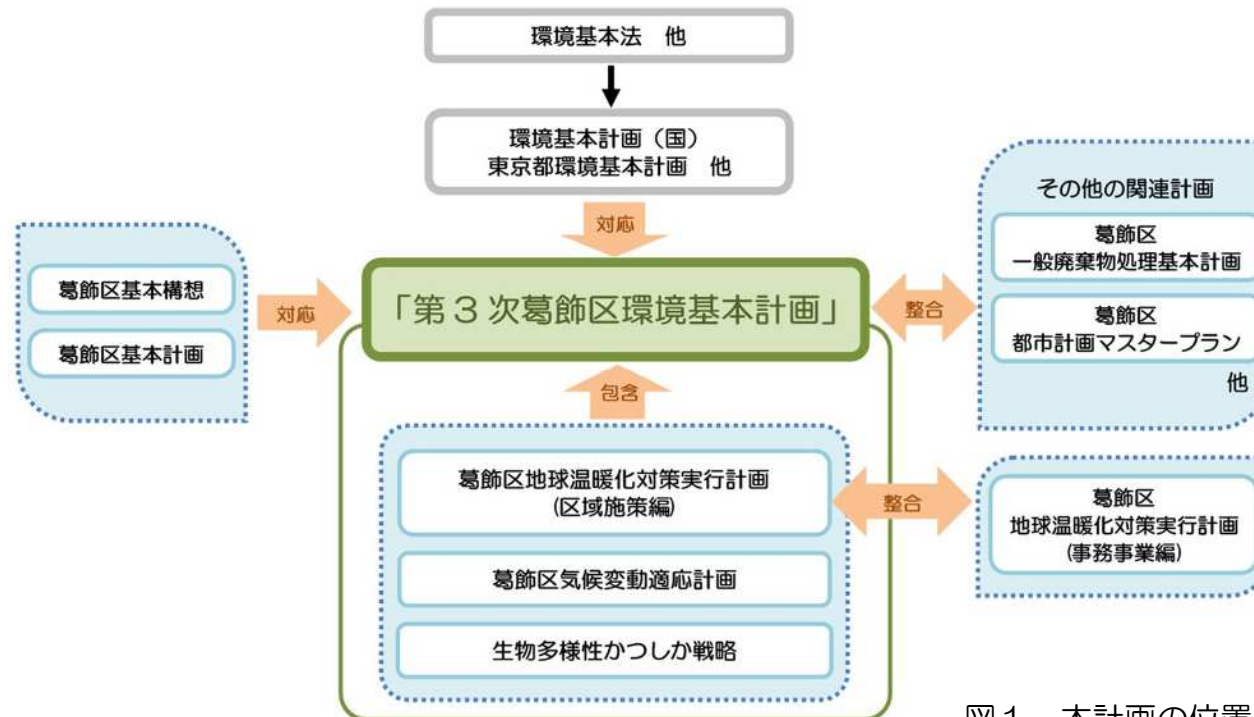


図1 本計画の位置付け

第3次葛飾区環境基本計画の目標について

本計画は、基本理念に基づいて将来的な区の在り方を示す望ましい将来像である「みんなでつくる人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」を実現する目標として、5つの基本目標を設定しました。

5つの目標は、相互に関わり合い、切り離すことができないものであり、いずれかの目標のみを優先させることなく、全ての目標の達成に向けて取り組むことが重要です。

全ての基本目標における施策や事業に対して真摯に取り組み、時には連携し同時解決を図ることで望ましい将来像の達成を目指します。

基本理念

私たちは、大気や水、ごみ、生きものなどの暮らしに身近な環境問題から、地球温暖化といった世界的な環境課題、大型台風の上陸や猛暑などの気候変動やウイルスによる感染症拡大といった、これまで経験したことのない新たな環境問題にも、オールかつしかで力を合わせて乗り越える必要があります。

私たちが将来にわたって安心して幸せな生活を送り、事業活動のさらなる充実を図っていくためには、社会経済活動やライフスタイル・ビジネススタイルを振り返りながら、区民・事業者・区の連携・協働によって、経済・社会・環境の3側面での統合的向上を図り、次世代へ継承する自然環境の恵み豊かな持続可能なまちをつくります。

望ましい将来像

「みんなでつくる 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」

5つの基本目標

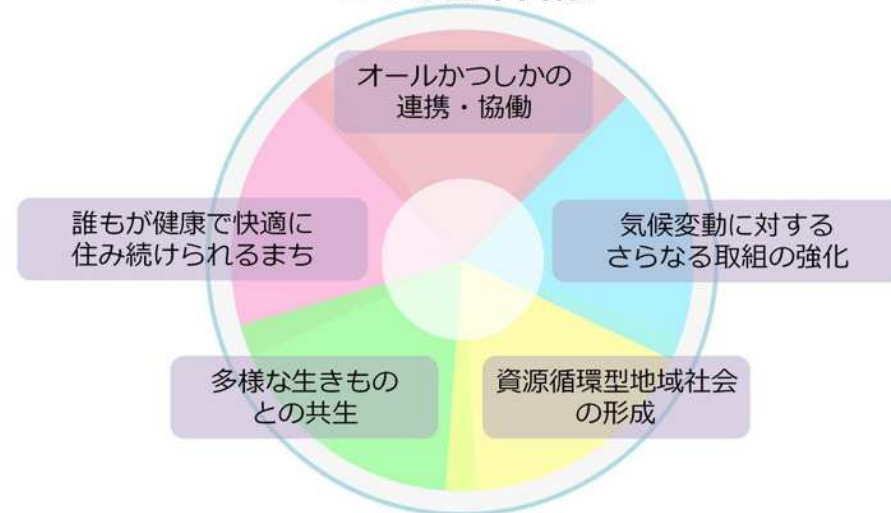
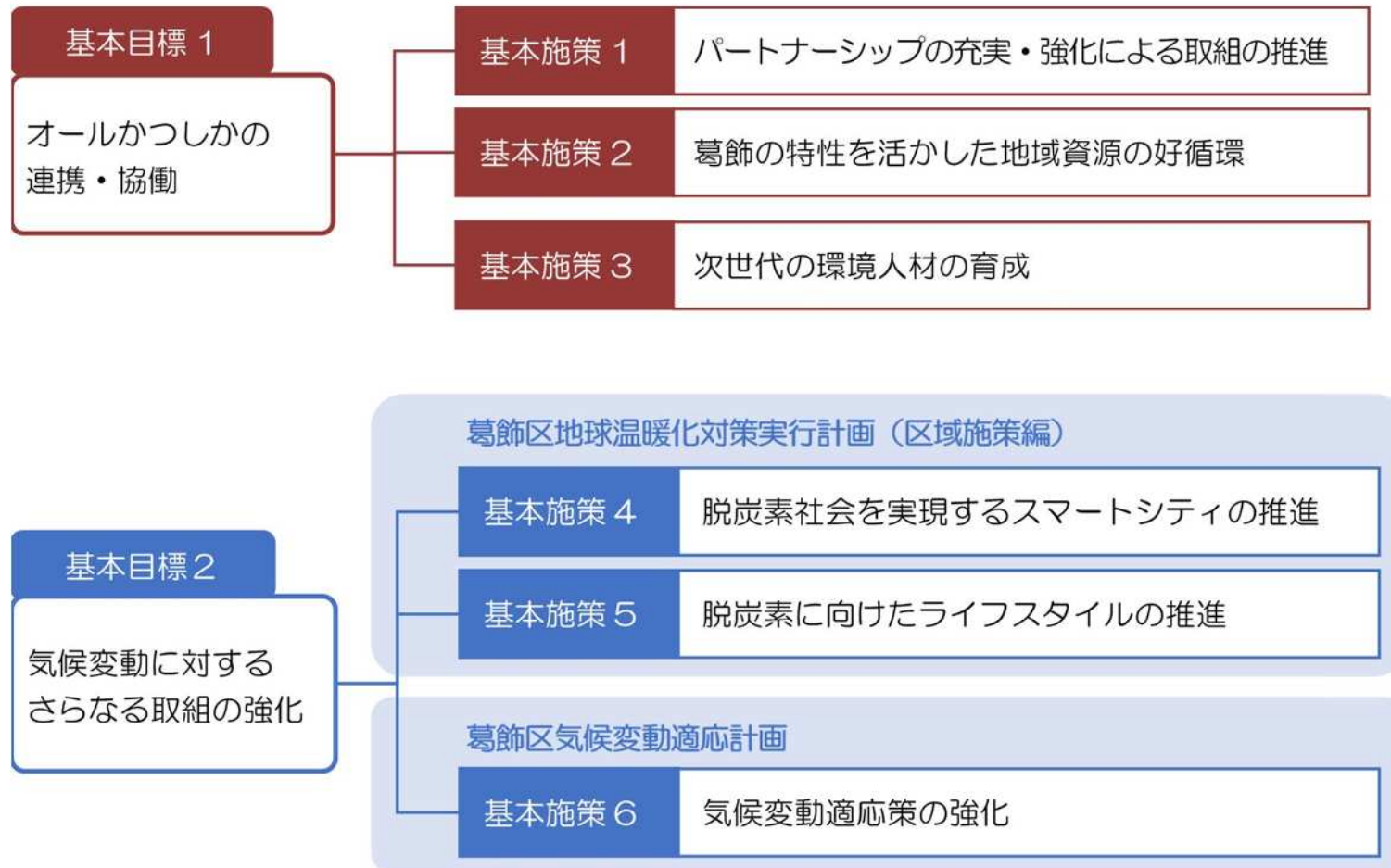
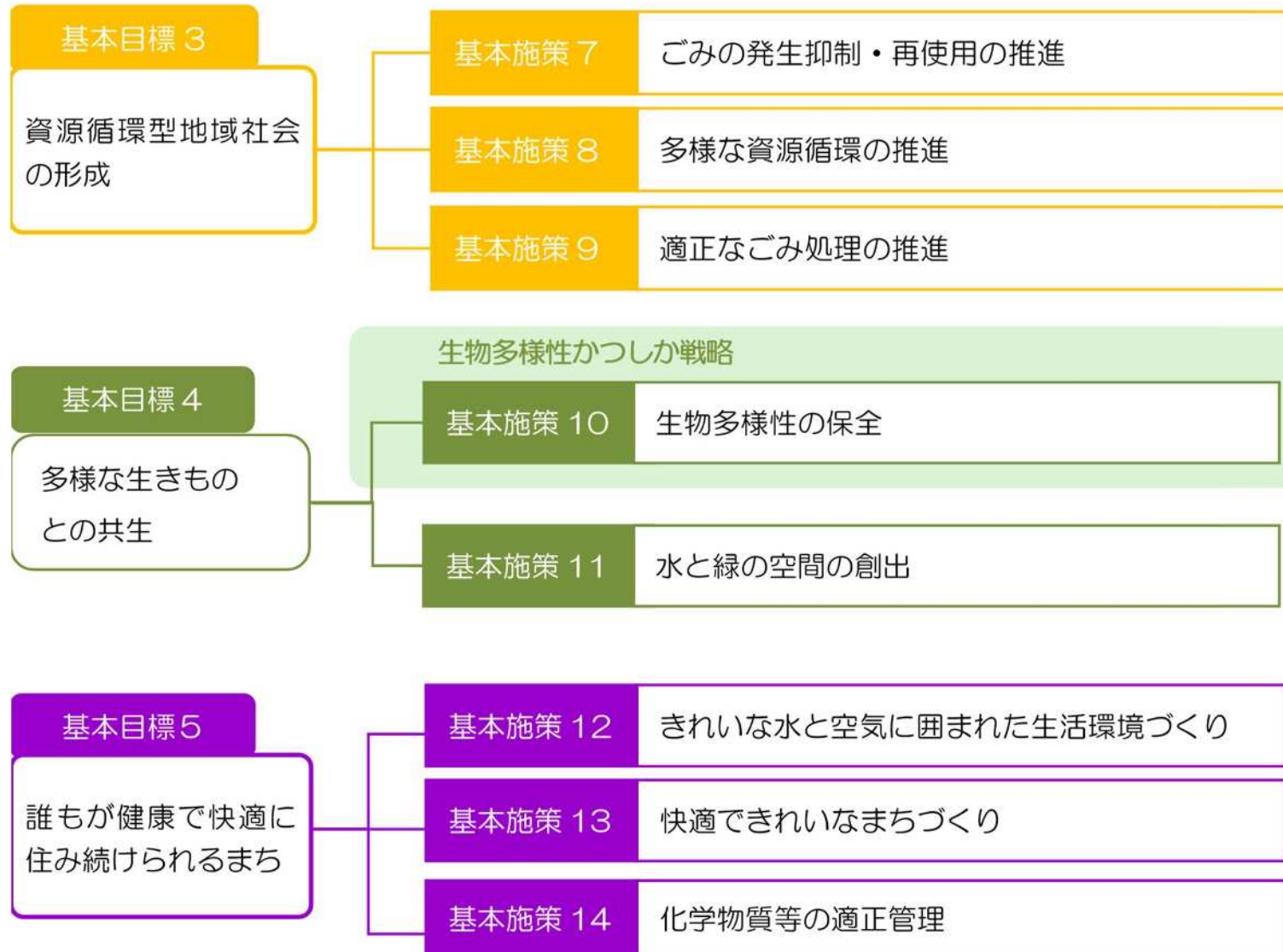


図2 基本理念・望ましい将来像・基本目標のイメージ

第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の進行管理について

本計画を実効性のあるものとするためには、施策の実施状況、関連する成果指標の推移などの点検を行い、その結果に基づき、改善をしていくPDCAのサイクルが必要です。

そこで、本計画の進捗管理に当たっては、気候変動、自然環境、都市緑化、資源循環に関連する学識経験者や環境に関する協議会をはじめとした区民団体、公募区民、区内の学生などで構成する環境審議会において、計画の進捗管理や見直しに関する事項、環境の保全に関する施策に関する事項等について審議し、次年度以降の取組につなげていきます。

今後も、継続的にPDCAサイクルを実施する中で、施策の進捗状況、国や都の計画策定等の動向、社会情勢の大きな変化等を踏まえ、適宜、目標及び施策の強化などの見直しを検討していきます。

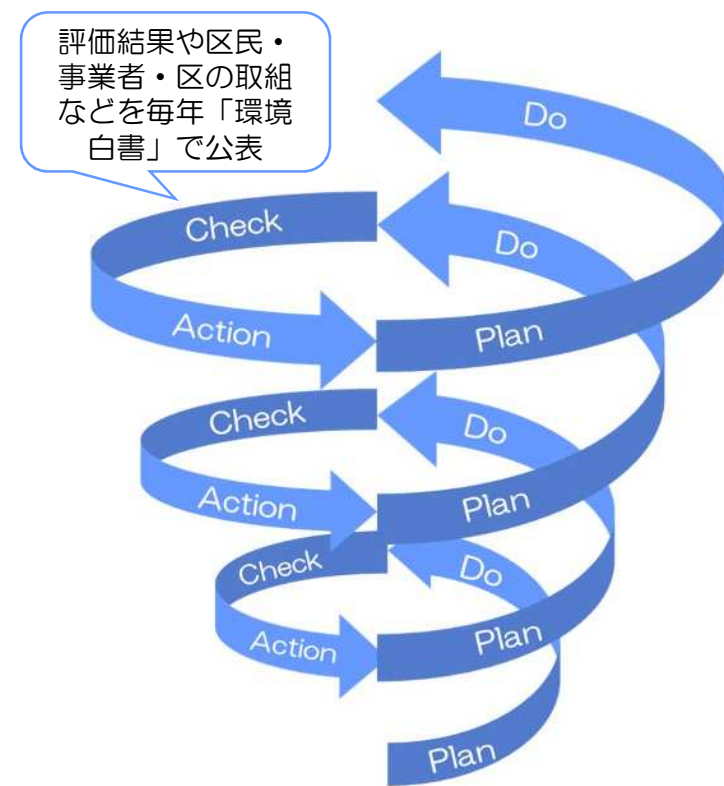


図3 PDCAサイクルのイメージ

目 次

基本目標 1	オールかつしかの連携・協働	7
基本施策 1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進	
基本施策 2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環	
基本施策 3	次世代の環境人材の育成	
基本目標 2	気候変動に対するさらなる取組の強化	11
基本施策 4	脱炭素社会を実現するスマートシティの推進	
基本施策 5	脱炭素に向けたライフスタイルの推進	
基本施策 6	気候変動適応策の強化	
基本目標 3	資源循環型地域社会の形成	20
基本施策 7	ごみの発生抑制・再使用の推進	
基本施策 8	多様な資源循環の推進	
基本施策 9	適正なごみ処理の推進	
基本目標 4	多様な生き物との共生	23
基本施策 10	生物多様性の保全	
基本施策 11	水と緑の空間の創出	
基本目標 5	誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち	27
基本施策 12	きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり	
基本施策 13	快適できれいなまちづくり	
基本施策 14	化学物質等の適正管理	

基本目標 1		オールかつしかの連携・協働			
	基本施策 1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進			
	基本施策 2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環			
	基本施策 3	次世代の環境人材の育成			
施 策 の 目 標					
指標		目標設定時の値	令和5年度	令和6年度	目標値
基本施策 1 パートナーシップの充実・強化による取組の推進					
省エネを心がけている区民の割合（％）※1		（令和2年度） 83.2％	83.5％	81.8％	（令和13年度） 95.2％
二酸化炭素吸収量（t-CO2/年）※2		（令和元年度） 842t-CO2	—	—	（令和13年度） 1,263t-CO2 50％増加
花いっぱい活動に取り組む活動箇所数（箇所）		（令和2年度） 150箇所	159箇所	166箇所	（令和13年度） 216箇所
基本施策 2 葛飾の特性を活かした地域資源の好循環					
「SDGs（持続可能な開発目標）」を知っている区民の割合（％）※3		（令和2年度） 39.4％	56.9％	—	（令和13年度） 100％
基本施策 3 次世代の環境人材の育成					
イベント来場者数（人）※4		（令和元年度） 9,400人	8,600人	9,300人	（令和13年度） 11,500人

※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」報告書（10年に1度実施）の数値を基に区独自で推計

※3 葛飾区世論調査（3年に1度実施）

※4 イベント内訳：かつしか環境・緑化フェア、ごみ減量・清掃フェアかつしか

令和6年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 協働による花いっぱいのもちづくりの推進</p> <p>（１）かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会や葛飾区緑化推進協力委員会などとの取組</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 花いっぱいのもちづくり推進協議会が会員相互や一般区民に向けたイベント「サロン・ド・花いち」を7月28日と12月15日に開催しました。 花いっぱいのもちづくりコンクールパネル展示・花いっぱいでおもてなし展・ミニ園芸教室など 日比谷公園ガーデニングショー（会期：10/19～27）にテント出展しました。 花いっぱいのもちづくりパネル展・フラワーメリーゴーランド、フラワードレス展示 <p>（２）花いっぱいのもちづくりの担い手の拡大</p> <p>花いっぱいのもちづくりの担い手の裾野を広げるため、個人や家庭を対象とした「まちかどマイガーデン」事業を実施しました。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の工作教室「リユース部品で作る花の壁飾り」 中学生以下のお子さんと保護者を対象とした工作教室 「早春のハーブの寄せ植えコンテナ」「春を彩るハンギングバスケット」 内容の異なる講座を午前午後に分けて実施しました。また会場での受講とオンライン会議システムによる受講により参加機会を拡充しました。 <p>（３）全国みどりと花のフェアかつしかについて</p> <p>令和8年度の開催に向け基本計画の策定に着手しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区民ボランティアによる地域での花壇活動は着実に拡大しています。さらに担い手の裾野を個人や家庭に広げていきます。 花いっぱいのもちづくり活動をより活性化するため、全国みどりと花のフェアかつしかを令和8年度に開催する予定です。

令和6年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ サステナブル・リカバリーによる区内産業の活性化 区内のSDGs活動を促進するため、SDGs達成に向け目標を決め宣言した事業者等に「SDGs宣言証」を発行し、取組内容を区ホームページ等で公表しました。</p> <p>【実績】 宣言数：累計148件（令和6年8月20日現在） 累計285件（令和7年10月22日現在）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 五泉市との児童交流事業については、葛飾区の児童による五泉市への訪問を行い、児童交流を深めています。訪問した児童たちにとって、自然体験や多くのことを学べるものになっており、今後も継続して児童交流事業を実施し、地域間連携を深めていきます。 「『多摩の森』活性化プロジェクト」においては森林整備事業、区民向け自然体験ツアーに加え、木材活用事業を実施し、持続可能な森林循環の広域的な取組を進めていきます。 新潟県五泉市及び秋田県鹿角市においては、引き続き森林整備を通じてカーボン・オフセット事業を行い、地球温暖化対策に寄与していきます。また、新たに区民向け自然体験ツアーを検討し、令和7年9月に区内在住の小学生親子40名を対象に五泉市自然体験ツアーを開催しました。引き続き、森林を軸とした地域間交流を行ってまいります。
<p>◆ 地域外との連携による取組</p> <p>（1）葛飾区と五泉市との児童交流事業 小学生などが五泉市を訪問し、五泉市の自然を体験することにより、都市型の葛飾の自然と対比し自然や生物多様性の素晴らしさや大切さを学んでもらうことを目的に実施しています。</p> <p>【実施内容】 金町小学校3名、清和小学校3名の児童が、五泉市大蒲原小学校を訪問し、サケの発表会、五泉市に関するクイズ、給食を一緒に食べる等によって児童交流を深めました。</p> <p>（2）森林整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多摩地区の森林整備を進めるため、都内12（令和7年4月1日時点では14）区市町村及び東京都と「『多摩の森』活性化プロジェクト推進協議会」を設立し、令和6年度は8.41haの森林を整備しました。 新潟県五泉市、秋田県鹿角市の森林整備について、市有林の間伐等に協力し、五泉市約3.62ha、鹿角市約16.0haの森林を整備しました。 	

令和6年度の主な取組結果						評価（課題及び今後の方向性）	
<div>◆ 環境学習の推進</div> <div>（１）環境学習の実施</div> <div>環境行動の普及・啓発を行うため、家庭や学校などに対し、環境学習の教室や講座を実施しました。</div> <div>【主な環境学習事業】</div> <div>再生可能エネルギーの環境学習教室、親子自然観察会、区民エコライフ学習講座、親子体験「LED電球でランプシェード作り」、夏休みリサイクル教室、出前講座、鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会、かつしかっ子探検隊、3R推進パートナー養成講座など</div>						<div>・ 環境学習やイベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした年度もありましたが、令和5年度に5類感染症に移行した背景もあり、堅調に実績を伸ばすことができました。</div> <div>今後も、環境行動の普及・啓発に取り組んでまいります。</div>	
<div>◆ イベントの推進による普及啓発</div> <div>（１）かつしか環境・緑化フェアの開催</div>							
入場者数（人）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
テクノプラザかつしか	中止	中止	3,600	4,500	5,400		
<div>（２）ごみ減量・清掃フェアかつしかの開催</div>							
入場者数（人）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
葛飾清掃工場	中止	中止	3,400	4,100	3,900		

基本目標2		気候変動に対するさらなる取組の強化		
基本施策4	脱炭素社会を実現するスマートシティの推進			
基本施策5	脱炭素に向けたライフスタイルの推進			
基本施策6	気候変動適応策の強化			
施 策 の 目 標				
指標	目標設定時の値	令和5年度 (令和3年度)	令和6年度 (令和4年度)	目標値
基本施策4 脱炭素社会を実現するスマートシティの推進				
区内の温室効果ガス排出量（千t-CO2eq） （平成25年度からの削減率）	（平成30年度） 1,463千t-CO2 12.1%	（令和3年度） 1,403千t-CO2 15.7%	（令和4年度） 1,349千t-CO2 19.0%	（令和12年度） 832千t-CO2 50%
区内の再生可能エネルギー導入率（kW）	（令和2年度） 26,364kW	31,301kW	35,053kW	（令和12年度） 41,475kW
区内のエネルギー消費量（TJ） （平成25年度からの削減率）	（平成30年度） 15,240TJ 11%	（令和3年度） 14,402TJ 15.9%	（令和4年度） 14,037TJ 18.1%	（令和12年度） 11,993TJ以下 30%以上

※区内乗用車のZEVの割合の指標は、算定で使用する値の一部が未公表のため記載を省略。

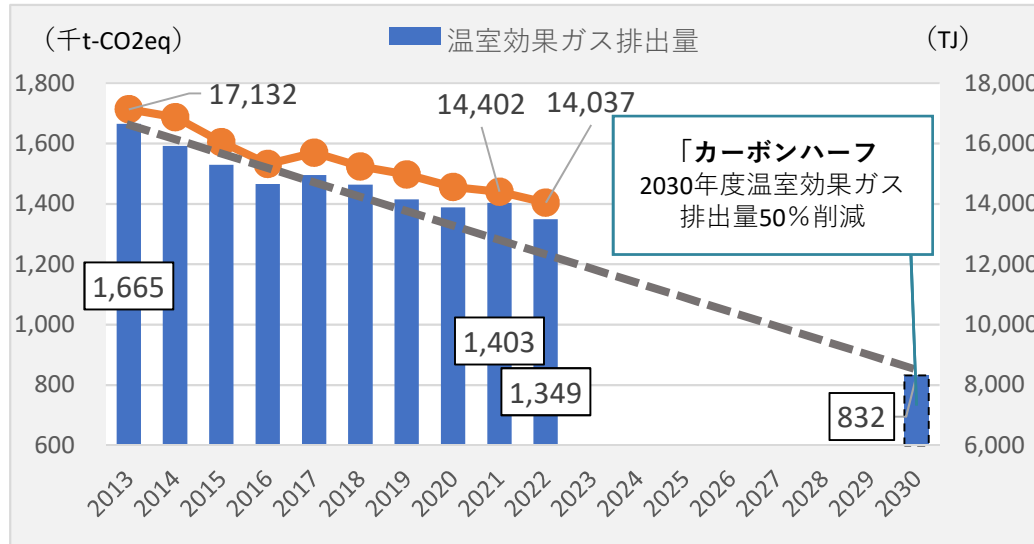
施 策 の 目 標

指標	目標設定時の値	令和5年度 (令和3年度)	令和6年度 (令和4年度)	目標値
基本施策5 脱炭素に向けたライフスタイルの推進				
家庭部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	（平成30年度） 554千t-CO ₂ 14.3%	（令和3年度） 569千t-CO ₂ 11.9%	（令和4年度） 548千t-CO ₂ 15.2%	（令和12年度） 323千t-CO ₂ 以下 50%以上
業務部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	（平成30年度） 325千t-CO ₂ 13.3%	（令和3年度） 288千t-CO ₂ 23.2%	（令和4年度） 270千t-CO ₂ 28.0%	（令和12年度） 187千t-CO ₂ 50%以上
区の事務事業による温室効果ガス 排出量（t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	（令和2年度） 23,403t-CO ₂ 26.3%	23,678t-CO ₂ 25.4%	23,534t-CO ₂ 25.9%	（令和12年度） 15,877千t-CO ₂ 51%
基本施策6 気候変動適応策の強化				
区内の熱中症搬送者数（人）※1	（令和2年度） 223人	293人	309人	（令和13年度） 200人以下を 維持
気候変動適応策を知っている 区民の割合（％）※2	（令和2年度） 25.8%	35.5%	32.5%	（令和13年度） 50%
区の災害対策が進んできていると思う 区民の割合（％）※2	（令和2年度） 38.5%	34.0%	34.3%	（令和12年度） 50%

※1 救急活動の現況（東京都消防庁）

※2 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

葛飾区における温室効果ガス排出量の現況について



➤ 現況

- 令和4（2022）年度における葛飾区の温室効果ガス排出量は、前年度比で3.8%減少しました。
- エネルギー消費量においても、前年度比で2.5%減少しました。

➤ 考察

- 令和4（2022）年度の温室効果ガス排出量は、過去最低値を記録し引き続き減少トレンドは継続すると考えられます。

単位：千t-CO₂

項目/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 3年度 (2021)	最新年度 令和 4年度 (2022)	目標年度 令和 12年度 (2030)
温室効果ガス 排出量（千t- CO ₂ eq） （基準年度比）	1,665	1,403 （▲15.7%）	1,349 （▲19.0%）	832 （▲50%）
エネルギー消費 量（TJ） （基準年度比）	17,132	14,402 （▲15.9%）	14,037 （▲18.1%）	11,993 （▲30%）

部門/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 3年度 (2021)	最新年度 令和 4年度 (2022)	目標年度 令和 12年度 (2030)
産業	173	119	123	90
家庭	646	569	548	310
業務	375	288	270	186
運輸	350	254	249	149
廃棄物	52	59	58	33

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<div>◆ 再生可能エネルギーへの利用転換の拡大</div> <div>（１）太陽光発電システム及び蓄電池の設置助成</div> <div>再生可能エネルギーの利用拡大を図るため、家庭向け・事業者向けそれぞれで設置費用の一部を助成しています。</div>				<div>・ 太陽光発電システムや蓄電池の助成件数が年々増加しています。このことから、本助成は再生可能エネルギーの利用拡大に寄与していると評価しています。</div> <div>引き続き助成金等を通して、区内の再エネ導入を推進していきます。</div>
太陽光発電システム（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	276	379	671	
事業者向け	7	4	13	
合計（件数）	283	383 (+100)	684 (+301)	
合計出力数（kW）	1267.1	1696.3	2987.95	
本事業で導入した太陽光発電システムの 累計年間発電量（kW）		18,353.65		
令和6年度の年間発電量・・・846世帯に相当 累計年間発電量・・・5,198世帯に相当 ※令和4年度の関東甲信地方の1世帯当たりの年間電気消費量 3,531kWh（環境省「令和4年度 家庭部門のCO2排出実態 統計調査 資料編（確報値）」）を用いた推計				
蓄電池（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	337	547	863	
事業者向け	6	3	14	
合計	343	550 (+207)	877 (+327)	
HEMS（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	154	192 (+38)	213 (+21)	

令和6年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>（２）区施設への太陽光発電システム及び蓄電池の導入 令和6年度は、清掃事務所、リサイクルセンター及び道上小学校の計3施設に太陽光発電システム及び蓄電池を設置しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度末までに設置した施設数：46施設 太陽光発電システム発電量（推計）：226,854KWh/年 CO2削減量（推計）：98.8t-CO2/年 	<ul style="list-style-type: none"> 区有施設への太陽光発電システム及び蓄電池の設置については、新築や改築にあわせて着実に設置を進めています。令和7年度についても、2施設への設置を予定しています。 今後は、更なる設置拡大を進めるため、既存施設への設置も同時に進めていきます。 設置に当たっては、国や都の補助金を活用し、財政負担を軽減しつつ、取り組んでいきます。
<p>（３）区施設の再生可能エネルギー電力（RE100）への切替え 令和5年度に引き続き本庁舎及びスポーツ施設において、再エネ100%の電力をリバースオークションサービスを利用して導入しました。</p> <p>【再生可能エネルギー電力導入施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本庁舎及び指定管理者が管理するスポーツ施設 （葛飾区奥戸総合スポーツセンター、葛飾区水元総合スポーツセンター、葛飾区東金町運動場、葛飾区小菅西公園フットサル場、葛飾区上千葉公園運動場、葛飾区葛飾にいじゅくみらい公園運動場、葛飾区金町公園プール） 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー100%電力への切替えについても順次進めていく方針で、令和7年度は新清掃事務所の電力を再エネ100%に切り替えました。 令和8年度についても、対象施設を拡大する予定です。切替えに当たってはリバースオークションサービスを利用し、調達価格の抑制に努めていきます。

※リバースオークションサービス：小売電気事業者が他社の入札価格が見える状態で、一定期間何度でも再入札が可能
なせり下げ方式のオークションで、再エネ電力を簡単に、そして調達価格の抑制が
期待できる無料サービス

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>（１）高反射率塗装・断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化及び省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は個人住宅における「高反射率塗装」の助成額を、屋根等又は壁を一律5万円、屋根等及び壁を一律10万円に見直すことにより、申請者の手続きの簡潔化を図りました。 令和7年度は「高反射率塗装」の助成要件を、日射反射率50%以上から65%以上に見直しました。エネルギーの高効率化に向けて、引き続き高反射率塗装・断熱改修等の助成金により、区内の省エネ化を後押ししていきます。 家庭向けのLED照明機器の助成については過去10年間にわたって助成を実施したことにより、区内に一定数普及したことをもって、令和5年度をもって終了しました。 事業者における照明のLED化は、高額な初期費用が障壁となっていることから、普及が進んでいない状況を踏まえ、引き続き導入を促進していきます。
高反射率塗装・断熱改修（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	575	459	628	
事業者向け	8	8	20	
合計（件数）	583	467 (-116)	648 (+181)	
LED照明機器（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	71	50	53	
事業者向け	25	45	51	
合計	96	95 (-1)	104 (+9)	

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>（１）高反射率塗装・断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化・省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 高断熱住宅の助成件数が令和6年度に大幅に増加したことから、本助成は区内高断熱住宅の普及に寄与していると評価しています。 今後も区民が助成金を利用しやすいよう、助成内容の見直しや手続きの簡潔化を検討していきます。 今後、建替え等を行う施設については引き続きZEB Ready以上の認証を目指し、ZEBの標準化を進めます。既存施設についても断熱改修などを通して、可能な限り省エネ性能を高める取組を行っていきます。
高断熱住宅（ZEH）（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	6	39 （+33）	106 （+67）	
エネファーム（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	28	34 （+6）	33 （－1）	
空調機器改修（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業者向け	29	34 （+5）	48 （+14）	
換気設備機器（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
事業者向け	—	0 （±0）	5 （+5）	
<p>（２）区施設のZEB化（ゼロ・エネルギー・ビルディング） 令和9年度に開設予定の常盤中学校及び新宿地区屋内温水プールにおいて、それぞれ令和6年度中にZEB Ready認証を取得しました。</p>				

※ZEB：高断熱・高効率化によって大幅な省エネを実現したものや、さらに太陽光発電等によってエネルギーを創り、（ZEH）年間に消費するエネルギー量が大幅に削減されている建築物

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<div>◆ 次世代自動車（ZEV）の普及促進</div> <div>（１）次世代自動車等に対する助成</div> <div>次世代自動車の普及を促進するため、電気自動車や燃料電池自動車など環境にやさしい自動車を導入する際の費用の一部を助成しています。</div>				<div>・ 今後、国の自動車分野のGX（グリーントランスフォーメーション）実現に向けた動向を注視しつつ、引き続き電気自動車の普及を推進していきます。</div> <div>・ V2H充放電設備は電気自動車等を「動く蓄電池」としての運用を可能にするため、ZEVの普及促進に寄与するものであると評価しています。</div>
電気自動車（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	119	241	217	
事業者向け	6	33	42	
合計（件数）	125	274 (+149)	259 (−15)	
<div>◆ V2H充放電設備の導入促進</div> <div>（１）V2H充放電設備に対する助成</div> <div>災害時のレジリエンスの向上やZEVの普及を促進するため、V2H充放電設備を導入する際の費用の一部を助成しています。</div>				
V2H（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	—	8	16	
事業者向け	—	0	0	
合計（件数）	—	8 (±0)	16 (+8)	

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 宅配ボックスの導入促進</p> <p>（１）宅配ボックスに対する助成 再配達によって発生する配達用自動車からのCO2排出量を削減するため、宅配ボックスを導入する際の費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 宅配ボックスに対する助成は、令和6年1月から開始したため、令和5年度における実績は0件となっていますが、令和6年度は85件の実績になりました。今後も区内の宅配ボックスの導入を促進していきます。 施策の目標のうち、基本施策6「気候変動適応策を知っている区民の割合」は4割を切っており、目標達成には周知啓発をより一層推進する必要があります。 引き続き「緑のカーテン」事業をはじめ、様々な機会で気候変動適応策の普及・啓発を図っていきます。 令和7年度は区内公共施設63施設をクーリングシェルターに指定しました。今後、クーリングシェルターの拡充（民間事業所の新規指定・募集等）に向けて検討していきます。
宅配ボックス（件）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
家庭向け	—	0	84	
事業者向け	—	0	1	
合計（件数）	—	0	85 (+85)	
<p>◆ 暑さに対する適応</p> <p>（１）緑のカーテン事業 夏の暑さを和らげる効果のある「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、区民向けに講習会を4会場で実施し、気候変動への適応の必要性を普及啓発しました。</p> <p>（２）指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の指定 熱中症対策の強化を目的として令和6年4月1日に改正気候変動適応法が施行されました。この改正により、区内の施設をクーリングシェルターに指定できることとされました。これを受けて、気候変動適応策及び熱中症対策の強化を図るため、区内公共施設をクーリングシェルターとして指定しました。</p>				

基本目標3		資源循環型地域社会の形成			
	基本施策7	ごみの発生抑制・再使用の推進			
	基本施策8	多様な資源循環の推進			
	基本施策9	適正なごみ処理の推進			
施 策 の 目 標					
指標		目標設定時の値	令和5年度	令和6年度	目標値
基本施策7 ごみの発生抑制・再使用の推進					
区民一人一日当たりの 家庭ごみ量（g）		（令和元年度） 495g	449g	440g	（令和12年度） 425g
事業系ごみ 年間総排出量（t）		（令和元年度） 23,856t	22,781t	22,615t	（令和12年度） 23,805t
基本施策8 多様な資源循環の推進					
資源回収率（％）		（令和元年度） 22.1％	23.6％	23.7％	（令和12年度） 27％

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進				<ul style="list-style-type: none">区民一人当たりの家庭ごみ量は、令和2年度にコロナ禍の影響により一時増加したものの、その後はかつしかルールの推進によるごみ発生抑制の取組により、減少を続けています。事業系ごみについては目標値に達していますが、物価など社会的な要因によって排出量の増減に影響が出やすいため、引き続き目標値を維持できるよう、事業者向けの環境学習など啓発に取り組んでいきます。令和6年度は、引き続き環境学習やイベント等、様々な機会を捉えて啓発を行いました。今後も家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進について積極的に啓発を実施していきます。
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
環境学習の実施（回）	101	112	118	
イベントにおける区民参加型普及啓発回数（回）	11	8	7	
生ごみ処理機、コンポスト化容器の購入費助成（件）	102	185	210	
フードドライブの実施（件）	18	16	22	
不用品交換情報の発信（情報登録件数：件）	138	124	100	
◆ 事業所から出るごみの発生抑制・再使用の推進				
かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会を通じた事業者への啓発	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
啓発グッズ・啓発チラシ・容器包装削減ポスター配布数（件）	22,262	20,857	20,463	

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出る資源の循環、ごみの適正排出に向けた取組				<ul style="list-style-type: none">「ごみ性状調査」によると、燃やすごみ、燃やさないごみの中には、依然として資源が混入している状況です。 区は資源とごみの収集カレンダーなどを通じて資源の適正排出の周知に努めるとともに、適正排出の向上に向けて環境学習等事業を実施していきます。今まで「燃やすごみ」としていた製品プラスチックについて、令和7年度からは「資源」として回収し、再生利用することを開始しました。令和3年度から、燃やさないごみから金属類や小型家電などの資源化を開始し、令和4年度には資源化品目を8品目に増やしました。令和5年度には乾電池を追加するとともに、年度途中からは飲食用びんの資源化を試行しました。また、粗大ごみからも金属類などの資源化を開始しました。令和6年度は新たに布団類の資源化を開始したことで、資源回収率は上昇を続けています。今後も、令和12年度の目標達成に向けて資源循環型地域社会形成のための施策を実施していきます。
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
プラスチック容器包装の適正排出の啓発（資源とごみの収集カレンダーの印刷作成部数：件）	274,000	281,400	284,400	
不法投棄防止対策（不法投棄防止看板の配布数：枚）	105	37	48	
<p>（3）ボトルtoボトルの推進</p> <ul style="list-style-type: none">一般社団法人全国清涼飲料連合会と協働し、区民や事業者へボトルtoボトルによる水平リサイクルについてパネル展示等の啓発を行いました。プラスチックの代替素材の利用拡大やプラスチックの使用削減に向け、イベント等でバイオマス素材などの活用を促進する啓発活動を行いました。				
<p>（4）資源化の拡大</p> <p>令和6年度は新たに次のものを資源化しました。 燃やさないごみから・・・飲食用びん（本格実施） 粗大ごみから・・・布団類</p>				
◆ 効率的・効果的な清掃事業の推進				
地域の実情に即した収集サービス	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
高齢者世帯等への訪問収集世帯数（世帯）	550	579	579	
まちの美観向上を目的とした個別収集（件）	2,681	2,649	2,611	

基本目標4		多様な生き物との共生			
基本施策10		生物多様性の保全			
基本施策11		水と緑の空間の創出			
施 策 の 目 標					
指標		目標設定時の値	令和5年度	令和6年度	目標値
基本施策10 生物多様性の保全					
自然を大切にしている行動をしている区民の割合（％）※1		（令和2年度） 72.3%	72.7%	72.5%	（令和13年度） 86.0%
自然環境学習に参加する区民の数（人）		（令和元年度） 1,109人	1,310人	1,935人	（令和13年度） 1,230人
基本施策11 水と緑の空間の創出					
緑被率（％）※2		（平成30年度） 18.3%	—	—	（令和10年度） 20.0%
水辺が親しめる空間となっていると思う区民の割合（％）※3		（令和2年度） 59.7%	58.3%	61.0%	（令和13年度） 66.4%
緑と花の豊かさを感じる区民の割合（％）※3		（令和2年度） 65.5%	68.7%	70.9%	（令和13年度） 70.3%
区民一人当たりの公園面積（㎡）※4		（令和2年度） 4.36㎡	4.37㎡	4.36㎡	（令和12年度） 4.46㎡

- ※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」調査報告書（10年に1度実施）
 ※3 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※4 葛飾区基本計画に拠る（計画期間：令和3年度～令和12年度）

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 生物多様性推進に向けた主な取組</p> <p>（１）生きものトランプ出前講座</p> <p>区内で見られる昆虫等の生きものたちの写真や情報を記載したトランプを用いて、区立小学校や、イベントでのトランプ遊びの実演を行いました。</p>				<p>・ 令和7年度葛飾区政策・施策マーケティング調査の結果では、「自然を大切にする行動をしている区民」の割合は7割を超えています。これは、生物多様性推進に向けた様々な取組により、一定の成果が得られていると考えています。令和13年度の目標値（86.0%）の達成に向け、引き続き生物多様性推進に取り組んでいきます。</p>
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
参加人数(人)	638	307	671	
<p>（２）小さな水田づくり出前講座</p> <p>花の木、葛飾小学校で、田植え、稲刈り、生きもの観察等、年間の水田学習を通じて区の稲作の歴史や田んぼの生物多様性を学ぶ講座を実施しました。</p>				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
参加人数(人)	100	101	159	
<p>（３）昆虫標本づくり</p> <p>水元公園、水辺の生きもの館で昆虫標本づくりを行い、希少種や外来種など様々な種類の生きものがお互いに関わり合いながら共存していることを学びました。</p>				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
参加人数(人)	16	18	19	
<p>（４）生きもの調べ</p> <p>四つ木メダカの小道、西水元水辺の公園で、水路等に生息する生きものの捕獲、展示を行い、外来生物の駆除とともに、生物多様性意識の醸成を図りました。</p>				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
参加人数(人)	26	6	19	

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 貴重な自然環境の保全・再生</p> <p>（１）大場川中州清掃作業の実施</p> <p>中州を上流部分から3分の1ずつに分け、毎年度清掃作業を実施しています。</p>				<p>・ 自然保護区である大場川中州及び水元さくら堤の保全を行っています。大場川中州の廃棄物については、ここ数年、若干の増減はあるものの概ね横ばいの数値となっています。令和6年度は、例年数量が少ない中流部分にて作業を行ったため、一般廃棄物の処理量が減少しました。引き続き適切な保全を行っていきます。</p> <p>・ 令和6年度の箱罾設置件数は減少したものの、捕獲数は前年度と同数であり、アライグマ、ハクビシンが依然として区内に多数生息していると考えられます。今後の推移を注視しながら、継続して箱罾を設置してアライグマ、ハクビシンの捕獲に努めていきます。</p>
【廃棄物処理実績】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
一般廃棄物（kg）	2,510	6,160	2,060	
産業廃棄物（kg）	195	60	40	
合計（kg）	2,705	6,220	2,100	
<p>（２）水元さくら堤除草作業の実施</p> <p>毎年度4、5、7、9月に除草作業を、12月にフジバカマの切り戻し作業を実施しています。</p>				
<p>◆ 在来種の保護</p> <p>アライグマ（特定外来生物）、ハクビシン（外来生物法による指定なし）から在来種を守るため、区では個人宅を対象に捕獲用箱罾を設置しています。</p>				
【箱罾設置件数・アライグマ、ハクビシン捕獲数・捕獲率】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
箱罾設置件数	134件	130件	105件	
捕獲数	54頭	39頭	39頭	
捕獲率	40%	30%	37%	

令和6年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 自然環境を守り、育てる担い手の育成</p> <p>（１）環境学習用教材「エコかつ」の活用</p> <p>「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、区内の小・中学校にデータで配布しています。</p>				<p>・ 環境教育の一環として、児童が総合的に学び、環境行動を実践できるよう「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、区内の小・中学校にデータを配布しています。今後も授業の補助教材として活用するほか、自主学習ツールとしても活用いただき、環境教育を推進していきます。</p> <p>・ 条例に基づく令和6年度の緑化指導の確認は100件、21,838㎡となりました。今後も適切な指導を行っていきます。</p>
<p>◆ 生物多様性に関する情報収集・普及啓発</p> <p>（１）外来種に関する情報発信</p> <p>本区の環境を保全するために対応が必要な外来種について広報かつしかや区ホームページで注意喚起を実施しました。</p>				
<p>◆ 緑と花のまちづくりの推進</p> <p>（１）緑化指導</p> <p>身近な緑を増やし、快適で良好な生活環境を実現するため、一定規模以上の敷地面積に建築などを行う区民及び事業者、緑化計画の届け出を義務付け、新たな緑の創出を図りました。</p>				
【緑化指導実績】	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
確認件数（件）	102	101	100	
確認面積（㎡）	32,381	54,599	21,838	
<p>（２）「フラワーメリーゴーランド」導入の推進</p> <p>公共空間への新たな花の展開手法を発信することによりフラワーメリーゴーランドなどの導入が進みました。</p> <p>また、令和8年度に開催する「全国みどりと花のフェアかつしか」及び令和9年度に開催される「国際花と緑の博覧会」への導入の調整も行っています。</p> <p>【導入・展示場所】</p> <ul style="list-style-type: none">・ TOKYO TORCH Market 1基展示（フラワードレス） <p>期間：4/12～4/13</p>				

基本目標5		誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち		
	基本施策12 基本施策13 基本施策14	きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり 快適できれいなまちづくり 化学物質等の適正管理		
施 策 の 目 標				
指標	目標設定時の値	令和5年度	令和6年度	目標値
基本施策12 きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり				
大気（NO2・SPM）の環境基準値達成状況 （測定4局）※1	（令和2年度） 達成	達成	達成	（令和13年度） 維持
大気（Ox）の環境基準値達成状況 （測定1局：水元）※2	（令和2年度） 未達成	未達成	未達成	（令和13年度） 達成
河川水質（BOD）の環境基準値達成率（％） ※3	（令和2年度） 100％	100％	100％	（令和13年度） 維持
基本施策13 快適できれいなまちづくり				
生活環境に関する苦情件数（件）※4	（令和2年度） 483件	285件	298件	（令和13年度） 173件
区内がごみのない、きれいで清潔なまちになっ ていると思う区民の割合（％）※5	（令和2年度） 47.3％	53.6％	56.8％	（令和12年度） 60％

※1 NO_x（二酸化窒素）、SPM（浮遊粒子状物質）

※2 O_x（光化学オキシダント）

※3 3河川（江戸川・新中川・綾瀬川）の調査地点3か所における環境基準値適合検体数／総測定検体数（%）

※4 目標値は2019（令和元）年度の苦情件数（259件）を基準として設定

※5 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

令和6年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 河川、池、水路の水質向上対策の推進</p> <p>（１）河川水質調査の実施状況</p> <p>区内の河川の水質を監視するため、江戸川、新中川、綾瀬川の3か所にて水質調査を継続して実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度において、水質は全ての河川で環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていきます。
<p>◆ 大気汚染などの防止の推進</p> <p>（１）大気汚染常時監視の実施状況</p> <p>区内の大気環境について、汚染状況や経年変化を把握するため、4か所に測定局を設置し、常時監視を実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度において、大気は光化学オキシダントを除き、環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていくとともに、光化学オキシダントについては、ホームページやリーフレットなどにより普及・啓発を継続していきます。
<p>◆ 騒音、振動、悪臭などの防止の推進</p> <p>（１）工場等苦情処理</p> <p>工場や指定作業場などから発する騒音・悪臭・振動についての苦情・相談に迅速に対応し、生活環境の保全に努めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境に関する苦情については、引き続きお互いに配慮することの重要性を啓発していくほか、区民の生活習慣の変化に柔軟に対応していきます。